

霧島山（新燃岳）2017年10月14～16日にかけての降灰量（速報）

霧島山（新燃岳）の14～16日の降灰分布と量をまとめた（図）。14日8時23分に開始した噴煙高度が2300mまで上昇して主に北東側に降灰した噴火と、その後、主に15～16日朝にかけて西側に降灰した噴火の降灰分布と量である。なお、14日の噴火の実測値は層厚（mm）、15～16日の降灰は単位面積当たりの値（g/m²）を示している。

実測値を基に火山灰の密度を1 g/cm³として、Fierstein and Nathenson(1992)を手法によって各噴火の降灰量を求めると、14日の噴火は、18万トン、15～16日の噴火は1.4万トンとなる。両噴火とも降雨中の調査であったため、それによる流出の影響はある。そのため、今回求めた降灰量は最低値と考えられるが、定量値をとった各地点は、桁違いに薄くなっていないと考えられる部分を注意深く選んだため、桁としては正確であると考えられる。

なお、降灰量の計算法などが異なるが、地震研・防災科研・熊本大が報告した13日までの降灰量と単純に足しあわせると、噴火開始の11日から16日までの降灰量は、26～45万トンとなる。11～16日にかけて、およそ数十万トンの噴出物が放出されたと考えられる。

